

Fan JQ, Lu WJ, Tan WQ, et al. Effectiveness of Acupuncture for Anxiety Among Patients With Parkinson Disease: A Randomized Clinical Trial. JAMA Netw Open. 2022;5(9):e2232133. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2022.32133.

1. 目的

パーキンソン病 (PD) 患者の不安感に対する鍼治療の効果を検討する

2. 研究デザイン

二重盲検化、並行群間ランダム化比較試験 (8週: 介入期間、8週: 観察期間)

3. セッティング

広州中医薬大学第一附属病院パーキンソン病クリニック (中国)

4. 参加者

Yahr スコア 1~4 の特発性 PD かつハミルトン不安スコア (HAM-A) 14~29 点の 35~80 歳の患者 105 名

5. 介入

著者らが開発した 15° の斜刺可能な鍼治療ツールを使用し、いくつかの経穴へは斜刺で刺入した。施術者・被験者ともにアイマスク着用で横に介助者をつけ行った。使用鍼は単回使用ディスプレイ鍼 (0.25×25mm, 0.25×40mm) で、Sham 鍼群では刺さない工夫がなされた鍼を使用した。両群共 (鍼治療群: RA, Sham 鍼治療群: SA) 刺入後、1 分間で 180~200rpm の頻度で撚鍼を行い、その後 30 分置鍼した。介入頻度は週 3 回を 8 週間。使用経穴は、後頂 (GV19)、前頂 (GV21)、百会 (GV20) から両側の外側 1.5 寸、三陰交 (SP6)、神門 (HT7)、神庭 (GV24)、印堂 (EX-HN7) とし、両群共に同部位に治療した。

6. 主要評価項目

HAM-A を主要評価項目とし、治療前後、治療後 8 週間に評価を行った。副次的評価項目として、Unified Parkinson Disease Rating Scale (UPDRS) と 39-items Parkinson Disease Questionnaire (PDQ-39) などを用いた。

7. 主な結果

70 名が適格基準を満たし 1:1 で割付され、RA・SA 群 35 名ずつとなった。最終的な解析対象は RA 群 32 名、SA 群 32 名。RA 群では、治療前と比して HAM-A は平均 4.38 点 (95% CI: -5.12, -3.63; $P < .001$) 減少したが、治療終了時の HAM-A は両群間で有意な差がなかった (0.22 [95% CI: -0.63, 1.07]; $P = 0.62$)。観察期間後、RA 群の患者は、SA 群と比して、HAM-A の減少率が 7.03 ポイント大きかった (95% CI: 6.18, 7.88; $P < .001$)。UPDRS, PDQ-39 の健康感情スコア (Emotional Well-being; EW) は治療終了時点で二群間の有意差はなかったが、観察期間後は RA 群は両スコアにおいて SA 群と比して有意な減少が認められた (UPDRS: 3.40 [95% CI: 2.36, 4.45]; $P < 0.01$; PDQ-39-EW: 2.13 [95% CI: 1.15, 3.10]; $P < 0.01$)。

8. 結論

鍼治療は PD 患者の不安に対して有効である。本研究から鍼治療は PD 患者の不安症状の改善によって生活の質を改善し、全体的な運動機能の改善においても寄与するかもしれない。

9. 論文中的安全性評価

軽度な有害事象が 4 件 (皮下出血 2 件、一過性抜鍼困難 2 件) だが、重篤なものはなかった。

10. JSAM エビデンス委員会コメント

従来のダブルブラインド鍼の欠点であった直刺のみの点を改善したデバイスを開発・特許申請し、頭部経穴はダブルブラインドかつ斜刺可能にした新規性のある研究である。著者らのデバイスでは見た目でのブラインドは難しく、アイマスクをした状態で介助者が刺鍼を手伝い行うという実際の臨床とは大きく異なる状態での研究だが、介入終了後 8 週間後の不安スコア・PD における生活の質の改善が得られた点は意義のある研究と考える。鍼治療により PD の非運動症状の一つである不安感の解消により、運動症状など全体に良い影響を及ぼす可能性がある。

11. 情報抽出・和訳・コメント担当者および日付

2023.01.26 石山すみれ